

森林ビジネス

自然が好きな人から専門家まで楽しく読める森林の教養

古川大輔
Daisuke Furukawa



All About
**THE FOREST
BUSINESS**

CROSSMEDIA PUBLISHING

はじめに 可能性は無量大！ 新たな時代へ突入する森林ビジネス

日本は、世界に誇る「木の文化」を持つ国です。

樹齢千年を超える縄文杉で有名な「屋久島」、世界最大規模の原生的なブナ林が広がる「白神山」、吉野・高野・熊野を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」などの森林エリアは、世界遺産に登録されています。また、人里に隣接した山地や森林は「里山」と呼ばれ、古くから日本人の暮らしの中で大切にされてきました。近年、生物多様性や新たなライフスタイルの観点から、保全と活用が見直されています。

建築の世界においても、木は日本人と深い関わりを持つてきました。世界最古の木造建築は法隆寺であり、東大寺の大仏殿は世界最大級の木造軸組建築物として知られています。最近では、持続可能な地上資源としても木材があらためて注目されています。デザイン性の高い木造住宅は人気が高く、庁舎や体育館などの公共建築物のほか、木造のビルも建設されています。東京2020オリンピックでは国立競技場に、2025年の大阪・関西万

博では会場シンボルの「大屋根リング」に国産木材が使われました。

これら森林をとりまく話題には、SDGs、地方創生、脱炭素社会（カーボンニュートラル）、持続可能な社会の構築、保全と活用の両立など、共通のテーマがあります。しかし、どうもそれぞれの立場によって向いている方向が違うようです。肝心の森林には足を運ばず、メディアのニュースに踊らされている人も目立ちます。

2023年のこと。世界的に有名な日本の音楽家・坂本龍一氏が亡くなる直前、神宮外苑の再開発に反対する手紙を都知事らに送りました。「次の世代のことを考えていかねばならない」という意見は多くの共感を得ましたが、一方で「伐らないだけが保護なのか」といった議論も生きました。短期の時間軸で情緒的に木を伐採する立場と、長期の時間軸で論理的に森を創造していく視点は、いつまでも相互理解が難しく、平行線を辿っていきません。

私は現在、地域再生・林業再生コンサルタントとして森林ビジネスの世界に身を置いています。例えば子どものころから森林をめぐる問題を身近に感じてきました。

1976年に生まれ、東京都町田市で過ごした幼少時代。山林ではクワガタやカブトム

シを、里山ではザリガニやドジョウを捕り、外遊びに夢中になりました。高校生になるころ、映画『平成狸合戦ぽんぽこ』のように急に近くの山が開発され、タヌキや野ウサギが大型ダンプに轢かれ死んでいるのを目の当たりにしました。「市街化」とは「死骸化」じゃないかと、小さな憤りさえ覚えた記憶があります。

身近な自然が削られていく一方、森林がたくさんある山村は、いま、どうなっているのだろうか。そんな疑問から、大学院生のときに地域づくりインターン事業（旧・国土庁）に参加し、日本の林業の聖地とも言われる奈良の吉野林業に接しました。山への哲学を持った方々と出会い、ダム建設の理想と現実を目の当たりにして、私の価値観は一変しました。過去から現在、現在から未来へと森をつなぎ、山とともに生きる人々。彼らに感化され、私は森林・山村の世界へと誘われてゆきました。

あれから四半世紀。私は「森林×マーケティング」を切り口に、47都道府県すべての森林に足を運び、各地に関わってきました。本書はその経験をもとに書きおろしました。森林・林業に馴染みのない方にも面白く読んでいただけるよう、業界の全体を見渡す構成になっています。そのため、長いあいだ業界でバリバリ経営をされている方や森林と共に暮

らしている方には、少し物足りないかもしれません。とはいえ、これまで私が実際に現地を見たことや感じたことを交えつつ書いておりますので、プロの方々にとつても、専門性に新しい視座が加わるものとなれば何よりです。

第1章と第2章では、世界や日本の視点から見た森林の話を。第3章から第6章までは、森で育まれた資源が人々に届くまでを中心に。第7章から第9章までは、森林に関わる仕事や産業、さらに未来の森林ビジネスについて書いています。コラムでは、私が森林ビジネスで経験した出来事や、森林にまつわるエピソードについて触れています。

「森林ビジネスにヒントを得たい!」という方も、「森林はビジネスの対象なんかじゃない!」と思っっている方も、「ただ単純に、森と木が好き」という方も、新たな森林の可能性を感じていただけたらと思います。

この本を読み終えた後、「あの山・あの森に行ってみたい」「あの地域に行つて、あの建築を見てみたい」と思っただければ幸いです。そして新たに森林ビジネスにチャレンジしてみようという、新しい仲間が増えることを期待しています。

さあ、スタートです!

はじめに

0 0 2

第1章 Chapter 1 : The world of forest business

世界から学ぶ
森林ビジネスの世界

- 1 増加する世界人口と森林の関係 0 1 6
- 2 「サステナブル」ってなに？ 0 2 0
- 3 人はなぜ、木を植えるのか？ 0 2 4
- 4 世界遺産の森林 0 2 8
- 5 国民1人あたり1000円「森林環境税」 0 3 2

COLUMN 森林ビジネスで求められる多角的視点

0 3 7

第2章 Chapter 2 : The world of forest types

日本の人工林から学ぶ 多様な森林の世界

1	「明治神宮の森」「万博記念公園」は人工林？	040
2	国土の3割が人によってつくられた森	045
3	「森って誰のもの？」所有者で分類する森林	049
4	「スギ・ヒノキ・マツ」日本を代表する木の種類	054
5	日本三大美林と老舗林業地域	058
6	日本を代表する森のブランド「吉野林業」は何が違うのか？	067
COLUMN	「普通の産地」の木でもブランド化はできるのか？	070

第3章 Chapter 3 : The world of wood production

植林・育林・間伐・伐採から学ぶ
生産の世界

1	植林から「売れる木」になるまで.....	076
2	「間伐材を売ろう」のウン・ホント.....	080
3	樹齢300年「超長伐期」の吉野林業.....	083
4	収穫方法の違いで木材の品質は変わるのか？.....	087
5	森からはじまるサーキュラーエコノミー.....	092
6	「持ち主不明の森」が林業を採伐業にする.....	095
COLUMN	1300年以上続く日本の「伐採」vs「規制」論争.....	100

第4章 Chapter 4 : The world of wood distribution

木材市場から学ぶ 流通の世界

1	木の価格はどのように決まるのか？	106
2	複雑な木材流通と原木市場の現場	09
3	日本の技が光る「製材」と「乾燥」	13
4	「無節VS節あり」の議論	20
5	手刻みからデジタルファブリケーションまで	25
6	バイオマスは市場の後押しになるのか？	28
COLUMN	木にまつわる慣例の不思議	31

第5章 Chapter 5 : The world of wooden architecture

日本の建物から学ぶ
木造建築の世界

- 1 日本の建築と国産木材 134
- 2 「近山運動」と「国産材1・0時代」 140
- 3 地域ブランド工務店と直送産地の連携「国産材2・0時代」 143
- 4 北山杉と茶の湯文化 147
- 5 都会のビルも木造へ「都市の木造化」 150

COLUMN 日本各地で受け継がれる「山の講」 155

第6章 Chapter 6 : The world of wooden products

職人から学ぶ
木製プロダクトの世界

森ではたらく人々から学ぶ 現場の世界

第7章 Chapter 7 : The world of work

- | | | |
|---|--------------------------------------|-----|
| 1 | 森の仕事の担い手たち | 186 |
| 2 | 森林ビジネスの事業体 | 190 |
| 3 | 林業のプロが参入する「特殊伐採」 | 194 |
| 4 | 森の力を最大限に引き出す調整役たち | 198 |
| 5 | 林野庁・地方公務員と林業系コンサルタント | 204 |
| 1 | 寿司屋のカウンターに見る木へのこだわり | 160 |
| 2 | 日本の家具5大産地 | 163 |
| 3 | 林業の聖地で活躍する「ベンチャー木匠」 | 173 |
| 4 | 日本のスギ・ヒノキは楽器に向かない？ | 177 |
| 5 | DIYで活気づく国産木材の市場 | 180 |
| | COLUMN 「作り手」と「使い手」をつなぐ木製プロダクト | 182 |

6 担い手不足解消のための新たな取り組み

COLUMN 「おまえか、東京からきたコンサルは！ とつとと帰れ！」

2 1 0
2 1 5

第8章 Chapter 8 : The world of total forestry

「まちづくり」から学ぶ
トータル林業の世界

1 林業のフリースタイル化

2 関係人口から考えるトータル林業

3 六甲山の地域材活用と新たなライフスタイル

4 広がる林業の「6次産業化」

5 外資に買われる森林と水資源の危機

6 新たな価値を創造する里山事業

COLUMN 森と都市をつなぐ拠点

2 5 1

第9章 Chapter 9 : The future of forest business

これからの
森林ビジネスの世界

- 1 コロナ禍がもたらした「追い風」…………… 254
- 2 スマート林業が描く経営の未来…………… 258
- 3 AI・ロボットの活用により森林ビジネスは新領域へ…………… 262
- 4 森から生まれる新素材…………… 266
- 5 脱炭素と地域経済を両立する「J・クレジット」…………… 270
- 6 ネイチャーポジティブは山村振興のキーワードとなるか？…………… 274

COLUMN 高野山の森の保護と利用……………

おわりに…………… 282

参考資料…………… 286